

言ノ葉

号外

発行 H20.05.13

元校部 高宮新聞 大宮新

達一口一ヒーの定四

第29回 四校定期戦

第二十九回四校定期戦。今年も市内普通科四校が集い、熱い戦いを演じた。今回新聞部では四校定期戦を取材した。

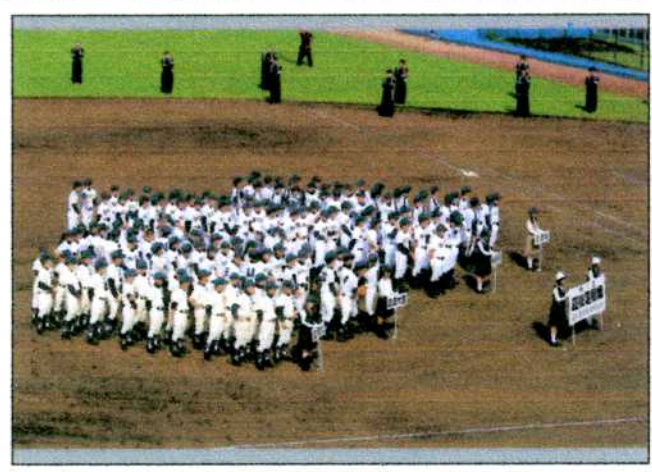
第3試合解説 大宮VS北

宮崎西との試合に敗れ、三位決定戦で宮崎北と対戦する事になった宮崎大宮だが、序盤から苦戦を強いられた。

	1	2	3	4	5	6	7	計
大宮	0	0	0	0	0	0	4	4
北	1	1	3	1	1	2	9	9

二塁ランナーの入佐選手がホームに走り、まず1点。次に田中選手がサードを強襲するヒットを打ち、代走の三塁ランナー岩本選手が生還して二点目。ツーアウトをとられた後、黒木選手の手が三塁打で二人のランナーが運ってさらに二点を追加し、あわせて四点を返したが、続く打者が凡打したためにこの回は終了し、大会規定により七回が最終回となったため、宮崎大宮の反撃はここで終わった。

試合全体としては、序盤から守りのミスが続き、毎回失点を許すという苦しい展開だった。打線も相手投手を打ち崩せず、五回まではノーヒットに抑えられてしまった。最後の七回にやっと連打が出たが、点差が大きかった為、大きな反撃には及ばなかった。



▲ 大宮・北・西・南の県立高校4校の野球部と応援団がグラウンドに勢ぞろいした。(5月8日アイビススタジアム/写真は開会式の様子)

(解説 守永先生) 今年の四校定期戦は暑さの影響もあったのか、四位という残念な結果に終わったが、野球部には今回の経験を糧に、甲子園へと続いていく夏の県予選での戦いに期待したい。

野球部

野球部の松崎智哉、河野秀之両選手に話を聞いた。振り返ってみても思うように大宮らしいプレーができなかったという。二人の目には悔しさがにじみ出ていた。ほかの野球部員も同じ思いだろう。その悔しさを、これからの試合にぶつけてほしい。

会場の変更の余波

今年、球場の予約の関係で、会場が変更された。予約の関係で、会場が変更された。不安の声もあったが、当日は総務やスタッフの準備努力により、無事に終了できた。来年は大宮高校が全体運営を任せられる。来年の総務やスタッフの活躍に期待したい。

応援団

声だし・応援・振り回しを繰り返した。Q特に思い入れのある曲はありますか？ See Uff! Q応援団をやっている良かなことはありますか？ 忍耐力がすごい。Q四定を終えてどうでしたか？



▲ 応援にも熱が入る。

吹奏楽部

Q当日大変だったことを教えて下さい。一番大変だったのは移動でした。約八十名の部員が一度に動くのは本当に大変でした。また、他校との合同演奏はとても難しかったです。Q練習で気を付けてきたこと、また本番で気を付けたことがありますか？ 応援団と何回も合わせて練習してきました。応援団はもちろん生徒のみならず、応援しやすいうように、そしてなにより野球部が頑張れるように応援しました。Q当日演奏をする立場から、四校定期戦にどのような感想を持たれましたか？ 大宮生の素直さを感じました。ゲーム展開の不利益なときはテンション低めで、有利なときはテンションが高い。学校が一つにまとまっている証拠だなあと感じました。Qその他、何か一言あればお願いします！ 名脇役、吹奏楽部をこれからもよろしくお願います！